

事前のご質問等の受付状況

資料2-3
(当日配布)

(1) ご質問及び回答

No.	資料	関連項目	質問要旨	回答																			
1	2-1	2 活用状況	利用目的の回答数・割合が示されているが、利用教室数・日数の集計はないか。	厳密な数値の集計はない。学校施設活用の概況把握のため、小中学校に「地域団体等へ貸し出した事例」を調査した。																			
2	2-1	2 活用状況	ホームページに「小学校の空き教室等の開放」があるが、開放施設となっている6校が現在どのような状況か教えてほしい。	対象校への調査状況は以下のとおり。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">学校施設開放（教室）の実態</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実施校</td> <td colspan="2">小学校6校</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">開放教室</td> <td colspan="2">特別教室（図書室・家庭科室等）</td> </tr> <tr> <td colspan="3">機械警備システム</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">実 態</td> <td style="text-align: center;">頻度</td> <td>毎週1回～数か月に1回</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">時間</td> <td>土曜日・日曜日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">内容</td> <td>高齢者のスポーツや文化活動・ガールスカウト・演奏練習等</td> </tr> </table>			学校施設開放（教室）の実態	実施校	小学校6校		開放教室	特別教室（図書室・家庭科室等）		機械警備システム			実 態	頻度	毎週1回～数か月に1回	時間	土曜日・日曜日	内容	高齢者のスポーツや文化活動・ガールスカウト・演奏練習等
		学校施設開放（教室）の実態																					
実施校	小学校6校																						
開放教室	特別教室（図書室・家庭科室等）																						
機械警備システム																							
実 態	頻度	毎週1回～数か月に1回																					
	時間	土曜日・日曜日																					
	内容	高齢者のスポーツや文化活動・ガールスカウト・演奏練習等																					
3	2-1	3 課題	これまでの学校教育外の利用に際して、セキュリティ対策は施されていたか。また、学校教育外の利用により学校教職員の負担増（例えば、休日出勤等）はあったか。	各学校の運営のなかで対策が実施されており、施設・設備面では把握していない。教職員が機械警備解除のために休日出勤するなどの負担増はある。																			
4	2-2	Ⅲ基本的考え方	指針（案）の対象とする範囲について、「校庭等」に体育館やアリーナは含まれるか。校舎の貸し出しは有料で、校庭は従来通り無料では、地域に平等に開放することにならない。	「校庭等」は、基本的に学校体育施設開放事業により活用される施設を想定しており、体育館・アリーナも含む。ただし、学校体育施設開放事業の対象外の利用については個別対応があり得る。費用負担については検討が必要である。																			
5	2-2	V 取組み方向性1	管理運営主体の具体的なイメージはどのようなものか。管理領域について、使用しないところはどうか。費用負担について、有料化を考えているか。管理責任の明確化について、善管注意程度でよいか。	管理運営主体は組織体を想定しており、学校体育施設開放の開放運営委員会や、学校施設開放の管理運営委員会等も参考にしながら検討する。管理責任や費用負担のあり方については検討が必要である。																			

(2) ご意見等

No.	資料	関連項目	意見要旨
1	2-1	2 課題	管理責任のあり方について、ここでの「組織単位」とはそれぞれの学校のことを指すのか。学校の場合、学校ごとに歴史もある。学校職員の意識について、セキュリティへの不安はいつも議論になる問題点。設備が進んだとしても、利用側との信頼感を醸成する必要がある。職員負担の増加も同様にどこまで利用者に任せられるかだろう。
2	2-1	2 課題	防災対策施設として、ほとんどの学校が避難所指定されているが、全てに対応できない。収容人数が多すぎるので、普通教室（要支援者の居場所）も使わざるを得ないはずだが、学校内で議論されていない。

3	2-1	5 視点	地域社会における学校施設の活用について、子どもルームや放課後子ども教室のほか、自治会の理事会等や地域の祭りの会場としても利用されている。地域団体の発足当時から全ての行事が学校を中心に実施されている事例もある。
4	2-1	5 視点	<p>外郭団体は、千葉市の施策目的実現のため「市を補完する団体」として主に民間で実施できない公共サービスを、市と連携して担っており、様々な事業、普及活動、イベントを行っている。学校施設有効活用についても連携を図ることで課題解決にも繋がると考える。</p> <p>例) 国際交流協会の国際交流や語学学習事業にて空き教室を利用していただき、児童生徒・保護者の参加も促す、など。</p>
5	2-2	V 取組み 方向性 2	双方へのメリットについて、学校教育の最優先は当然である。子どもを育てる機会としての着想とあるが、大人の団体も目立つ。
6	2-2	V 取組み 方向性 3	既得権益的な運用が目立つ。新規ではなかなか入れない。スポーツ施設関係では、夜間までやっているが、教育施設は夜間利用できない。また管理人がいないと使えない。管理人は予算の範囲内でしか配置されない。